

令和7年度 九州歯科大学歯学部 大学院入学式

式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。保護者の皆様におかれましても、無事大学受験が終わり、この日を迎えられましたことは慶ばしい限りかと拝察致しております。心よりお歓び申し上げます。

桜も満開となり、本格的な春の訪れを感じる季節となりました。そのような中、本日、第77回九州歯科大学歯学部入学式、また第60回九州歯科大学大学院入学式を挙行できましたことに、関係者一同、この上もない慶びとするところであります。

また本日、ここに、服部誠太郎福岡県知事ならびに香原勝司福岡県議会議長をはじめ、多くの来賓の方のご臨席を賜りましたことに対し厚く御礼を申し上げます。

本学は全国の29校ある歯学部、歯科大学の中で唯一の公立大学であります。歯学科と口腔保健学科からなる歯学部と、修士課程口腔保健学専攻と博士課程歯学専攻からなる大学院を有する「口腔医

学の総合大学」 として、今年で 111 年という長い歴史と伝統、ならびに輝かしい実績を持って歯学教育及び歯科医療の発展に寄与して参りました。

本学が平成 27 年に定めた九州歯科大学憲章においては、次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療を提供できる人材の育成を第一義に掲げ、全人的歯科医学教育活動を展開することを謳っており、本学では患者中心の全人的歯科医療を提供できる歯科医療人の育成を行なってきました。

全人的という言葉は聞きなれないかと思いますが、全人的な歯科医療とは、単に患者さんの疾病だけを診るのではなく、患者さんの心理的側面、社会的側面など、人として総合的な視点で患者さんを捉え、各々の患者さんにあった包括的な歯科医療サービスを提供することです。

そのために、歯科医師ならびに歯科衛生士といった歯科医療人を目指す新入生の皆さんは、卒業するまでに専門的な知識と技能はもちろん、幅広い教養知識、豊かな人間性や倫理観、コミュニケーション能力など、全人的歯科医療を展開する上で必要となる多くの能力、すなわちコンピテンシーを身につけなければなりません。

本学は他の歯学部、歯科大学に先駆けて、学位授与の基準であるディプロマポリシーと併せて、卒業時に必要なコンピテンシーを明確に定めて、それらを修得するために必要な教育過程を一貫して提供するアウトカム基盤型教育を実施しています。昨今、歯科医療を取り巻く環境が、大きく変わろうとしている中で、大学での学びにおいては、教員側の「何を教えたか」というより、学修者である学生さんが「何を学び、身に付けることができたか」が常に問われています。そのためにも、新入生の皆さんには、自ら自律的に学びを求め、主体的に学修する行動が必要となります。特に初年次における学修に取り組む姿勢は、非常に大切になります。本学だけでなく、他の大学においても、はっきりとしていることですが、初年次の成績が低迷した場合、多くは卒業時までその傾向が続くと言われています。

ここにいる学部新入生の皆さんは、総合型選抜、学校推薦型、一般選抜といった選抜試験を経てここにいます。当然、入試の成績にも違いはありますが、入学後の成績は、選抜の違いや入試の成績は関係ありません。従って、今、皆さんたちは、スタートラインに横一線に並んでいる状況と言えます。ここにいる多くの新入生の皆さん

んは、大学生活の始動と共に、順調に修学に臨んでいきます。しかしながら、毎年、一定数、入学したことがゴールかの如く、立ち止まってしまい、学修意欲を喪失してしまう学生さんがいます。明確な意思、目標があって、そうしているのであればいいのですが、そうでなければ結果的に自分の進むべき道を見失ってしまうことになります。

歯学科と口腔保健学科共に、実習を含む必修科目が多く、1年次生から卒業するまで、大変忙しい毎日を過ごすことになります。今一度、新入生の皆さんには、歯科医師になる、歯科衛生士になるといった本学に入学する際に抱いていた目標を忘れず、ここで改めて、学修に真摯かつ意欲的に取り組んでいく決意を強く求めます。

我が国においては、少子高齢化の影響により、あらゆる分野において、労働者不足が生じています。歯科医療分野においても同様です。近年、歯科医師過剰問題などマスコミで取り上げられ、歯科医師に対する間違ったネガティブなイメージが先行して参りました。現実はどうかという、口腔と全身健康の関連が明確になり、口腔健康が重要視される中で、人にとって重要となる生活の質（QOL）

を維持するためにも、専門的な歯科医療のニーズはどんどん高まってきています。しかしながら、全国の歯科医師数は昨年からすでに減少に転じて、地域によっては歯科医師が不足しているところも出てきており、今後は、益々、歯科医師不足が深刻な状況になると予測されています。歯科衛生士に関しても、高齢者の増加に伴う口腔健康管理の役割が増す中で、長年、慢性的な人材不足の状態が続いております。そのような中で、本学は歯科医療人である歯科医師と歯科衛生士を養成し、社会に持続的に輩出する大きな責務を持っております。歯科医師及び歯科衛生士は、共に大変やりがいのある職業で社会的に重要な意義をもっており、是非、新入生の皆さんには、将来の目標に向けて前向きに大学生活に臨んで欲しいと願っております。

さて大学院に入学された皆さんは、自らの興味ある専門領域での研究活動や専門的技能の修得を目的に大学院に進学されたのではないのでしょうか。本学の大学院教育では、本学の基本理念の中に「高度な専門性を持った歯科医療人の育成」と「歯科医学を支える研究の推進」が謳われている通り、大学院での研究活動や臨床現場での

専門的な学びを通じて、地域から世界に向けて歯科医療、医学をリードする歯科医療人を養成することを目標としております。

今年の2月に、中央教育審議会より「我が国の「知の総和」向上の未来像 ～高等教育システムの再構築～」という今後の高等教育のあり方を示した答申が出されています。ここでは我が国を取り巻く様々な問題に対して、高等教育機関には、学修者一人一人の可能性を最大限伸ばすことによって社会の発展の原動力となる優れた人材を育成し、人類の知的資産の継承と未来を拓く新しい知を創造し、知的資源を活用した社会の発展や文化の創造及び国際協力への積極的な貢献等を行っていくという役割が示されています。特に大学院教育には、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」、「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員の養成」及び「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の育成」という4つの人材育成機能を担い、「知の総和」の向上における知の生産、価値創造を先導する「知のプロフェッショナル」を育成する役割を期待されています。今後、大学院新入生の皆さんには歯科医療、医学分野だけではなく、地球人として我が国

を含めて、世界的な問題に対しても問題解決できる役割を担っていくために、幅広く様々な分野に興味をもって自らの可能性を伸ばしていられることを期待しています。

本学は、来年度から「口腔医学総合研究センター」及び研究者の研究活動を総合的に支援する「University Research Administrator: URA」を設置します。本学が立地する福岡県は、地理的にアジアに近く、また歴史的・文化的にもアジア諸国との交流が盛んな地域であります。本学では、今後もアジア諸外国との交流、共同研究の推進を図り、若手研究者の育成を積極的に実践していきます。大学院生の皆さんの研究活動に関しても、研究センターと URA が核になって、研究生活が円滑に進んでいくための支援を行っていきます。

政府が未来社会のコンセプトとして使っている Society5.0 という言葉を、ご存じでしょうか。Society1.0 が原始時代から縄文時代までの狩猟社会をさし、Society2.0 は弥生時代から江戸時代までの農耕社会、Society3.0 は明治から昭和までの工業社会、Society4.0 は平成の情報社会をさし、Society5.0 は令和以降、2030 年頃に具現化を目途にしている仮想空間と現実空間を融合させたシステムで、

経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心のスマート社会を指します。この定義では具体的なイメージがつきにくいのですが、すでに我々の身近なところで、Society5.0 が形作られてきています。IoT、ビッグデータの活用、AI、5G などすでに、一般化されてきている流れがそれにあたり、大学教育及び臨床現場においてもDX は急速に進んできております。Society の変化は、時代のゆっくりとした大きな流れの中で起きてきましたが、工業社会の Society3.0 は 100 年余、情報社会の Society4.0 は 30 年余の期間で、Society で定義されている社会の大きな変革の流れは、今後は我々の想像以上のスピードで起きていくと考えられます。今、普通に使っているスマートフォンやインターネットの情報環境は、30 年前には、想像もできていないようなものでしたが、それらは普通に使われている現状をみても驚愕する限りです。新入生の皆さんを含め、我々は、社会の急激な変革のなかで、生きていかなければならない宿命を持っています。そのためにも、今をよしとせず、常にイノベーションをする意識と共に、世の中の変化に対して、前向きに自分自身をアップデートする行動を実践していく必要があります。特に歯科医療人としては、生涯にわたって、その間、おそらく

社会は急激な変化が起きている中で、時代に求められる歯科医療人としてどうすべきか、常に自問自答しながら、そのための行動が求められていきます。

一方、歯科医療を通じて、国民の健康と福祉に寄与するためには、医療問題は社会・経済問題と言われているように、医療は社会の現況と切っては切れない関係にあるということを認識する必要があります。新入生の皆さんには、歯科医療人を目指す本学の学生であるという自覚と合わせて、社会の一員であるという認識を強く持ってもらい、今まで以上に、社会に関心を持ち、そして積極的に社会参加をして、日本そして世界の明るい将来のために、自分の未来は自分で切り開くといった気概を持って、成長して欲しいと願っております。

昨年度、「九州歯科大学長期ビジョン 2035」を策定し、現在、ホームページ上で公開しています。少子高齢化、人口減少といった大学を取りまく環境が厳しさを増す中で、本学がこれまで蓄積してきた知識や経験を結集し、劇的な転換期に差し掛かっている歯科医学や歯科医療のさまざまな課題への取り組みや、これまで以上に地域保健医療に貢献して、持続可能な大学として発展していくため

に、12年後の大学の目指すべき姿を5つのビジョンとして示しております。その中で、長期ビジョンの位置づけとして、すべての学生および教職員が、明るい未来を創造するための指標とするとあります。教職員、学生以外にも、本学のステークホルダーである福岡県、北九州市他近隣の市町村、地域住民、同窓会、歯科医師会等との連携を深めていきながら、小さいながらもきらりと光る唯一無二の存在であるべく、よりよい大学に発展していくために、教職員が一体となって長期ビジョンの実現に向けて、アクションプランを実行していく所存です。

最後にフランスの元大統領であるシャルル・ド・ゴールの言葉を紹介します。

曰く、「物事を考える人間は大勢いるが、行動を起こすのはたった一人だ」この言葉は、私が学生さんの話を聞くときに、よく感じるのですが、間違いを起こして、また日々の振り返りをして、こうすべきだったな、次にこうすべきだな、これをもっと事前に学修すべきだったなど、言葉としてはいろいろな反省や考えが出てくるのですが、ほとんどの人は言葉だけで、実際に行動に移さないため、当然、何も変わりません。もし自分の生き方を、本気で変えたいと

いうのであれば、まずはそれを行動に移すべきです。この考え方は非常に、今後の学生生活だけでなく、人生にとって大切な考え方があります。また昔から言われていますが、「考えるより行動せよ」にも通じる考え方で、考えすぎて行動しないよりは、思い切って行動することで、はじめて新たな気づきや次につながる成長が得られることにもなります。考えるだけでなく、考えたことは必ず行動に移すことを是非心がけてください。

以上、今後の皆さんの学生生活が楽しく充実したものになることを祈願しまして、私の式辞とさせていただきます。

令和7年4月3日

九州歯科大学 学長 栗野 秀慈